

まえがき

衛生研究所は、埼玉県における保健医療行政の科学的・技術的中核機関として、健康危機から県民を衛るための各種試験検査、調査研究、感染症や地域保健情報の収集・解析・提供、専門研修の企画・開催等を行っています。今年で吉見町への移転後5年目を迎えました。

本報の対象年度である平成29年度は、コンゴ民主共和国のエボラ出血熱、マダガスカル共和国における肺ペストの流行、関東地方を中心とした同一遺伝子型の0157 diffuse outbreak、本県をはじめ国内広域での麻しんの流行等様々な健康危機事例が発生しました。

その都度、迅速的確に対応し、正確な検査結果の提供に努めておりますが、様々な健康危機事案に適切に対処するためには、確立された技術を用いて調査を行うだけでなく、高度な研究を基盤とした高い技術と思考力が必要と考えます。そのため、若手・中堅職員の研修計画の策定による人材育成、成果に応じた研究発表機会の促進、先行研究をreviewし、議論する場としての抄読会の開催等高度な検査技術レベルを維持するための体制づくりに取り組んでおります。

また、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックなどの国際イベントに備えるとともに、終了後もさらなるグローバル化に対応するために、本県が新たに取り組む感染症重大事案対策事業において、次世代シーケンサー（NGS）を当研究所に整備し、重大感染症の迅速な探知、解明等危機対応力の強化を図っているところです。今後は国立感染症研究所や他の地方衛生研究所とも連携し、NGSを用いた感染症対策の研究や成果を広く県内外に発信していきたいと考えております。さらに、本年度の食品衛生法改正により、盛り込まれた食品用器具・容器包装のポジティブリスト化等新制度に円滑に対応するため、関係課所と連携し、体制整備に努めています。

当研究所は、県民の皆様はもとより本県を来訪される方々の安全・安心を確保する科学的・技術的な拠点であることを合言葉に、今後とも職員一同時代の要請に応えられるよう研鑽を深め、保健医療分野における諸課題に確実に対応してまいります。

本号には、各担当の業務実績や調査研究の実施状況（研究事業報告3編、調査研究6編、資料17編、雑誌等の紹介6編、口演等の紹介48編）を収録致しました。ぜひ、御覧いただき、御活用いただければ幸いです。

平成30年12月

埼玉県衛生研究所

所 長 中 島 守